

非来館型でも歴博を最大限に有効活用 ～オンライン・展示・YouTube で江戸の身分制度と生活の様子を学ぶ～

千葉県立四街道特別支援学校 阿部 秀人

1 実施学年及び教科・領域

病弱特別支援学校 中学部 第2学年 社会科

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名

「身分制度とそれぞれの暮らし」

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は、中学校学習指導要領社会の第2章第2節社会〔歴史的分野〕2内容B(3)近世の日本ア(イ)江戸幕府の成立と対外関係「江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解すること」に基づき設定した。

本単元は、江戸時代の導入的として、大名統制（大名の種類や配置の工夫）の仕方や身分制度（身分に応じた生活の違い）などの江戸幕府の基本構造をおさえ、260年もの長きにわたり幕府支配が継続できた理由を学ぶといった、江戸時代の学習の土台となる内容を取り扱う。

②単元の目標

- ・江戸幕府の仕組みや身分制度、身分による暮らしの違いについて理解する。
- ・屏風絵や模型などから当時の様子を読み取って、特色を文章や口頭で表現する。
- ・江戸時代の学習を通して、歴史学習に対する興味関心を高め、自ら進んで探究しようとする。

(3) 博物館との関連

①活用方法

「非来館型活用」

②活用資料

「第3展示室」・・・授業者が事前に撮影

- ・江戸図屏風・・・歴博で印刷済（番号 H-5）
- ・四季農耕図屏風・・・授業者が撮影（番号 F-161）
- ・江戸橋広小路模型・・・YouTube 他

「歴博ホームページ」

「公式 YouTube チャンネル」

「わくわく!探検 れきはく日本の歴史3 近世」

江戸図屏風



National Museum of Japanese History



National Museum of Japanese History

四季農耕図屏風

※館蔵品ではないため画像未掲載



ワークシート

（オンラインガイドランス用）

（来館時見学用）

江戸**びょうふ**図屏風ワークシート

年 組 名前()

① どの場面を選びましたか。○をつけましょう。

江戸城 日本橋 新橋・京橋周辺 洲度谷

② どんな人が何をしていますか。

③ 人以外に何がありますか（いますか）。

④ 不思議に思ったことはありませんか。

⑤ 授業でわかったこと、気づいたことをまとめてみよう。

<第3展示室②>

のうこん しき
農村の四季

!! 写真の水車の右にある四季農耕図屏風を見つけてください。

1 働いている人をさがしてください。見つけたらチェックしてください。

- 由楯えをする人
- 由に水車で水を入れている人
- 稲刈りをしている人
- 蔵に米を運びこんでいる人

2 牛や馬などの動物も描かれています。牛や馬は、どんなことをしていますか。2つ書いてください。

3 屏風の の部分を見てください。

左隻 (左側)										右隻 (右側)

夏、村の人びとが、わらや木で作った龍神を持って、山の神社（鳥居）に向かって進んでいます。村の人びとは、何を頼ったと思いますか。友だちと相談しながら考えてみてください。

(4) 指導観

私が勤務する四街道特別支援学校は、病弱児を対象とする特別支援学校であり、校内に小学部・中学部・高等部が設置されている。また、教育課程も多岐にわたり、一般の小中高等学校に準ずる教育を行う教育課程、知的障害を併せ有する教育課程、自立活動を主とする教育課程の3つの教育課程があり、児童生徒の実態も多種多様である。

今回、授業を展開した学級は、中学校に準ずる教育課程で学習を行っており、教科書も学習内容も一般の中学校と何ら変わりがない。しかし、病弱児という特性から、様々な学習上の困難を抱えている。具体的には、幼少期から入退院を繰り返していたり、外出に制限があったりするために未学習領域が広がったり、継続的な学習の積み重ねができていなかったりという課題である。また、経度の発達障害的な傾向を有している生徒も在籍している。そのため、できる限り実物に触れる機会を増やし、生活経験の不足を補いながら学習を進めていきたい。教科書や資料集などの写真や資料のみでなく、当時の道具やレプリカを使用して使い方や手触り、材質などを肌で感じられるようにしたい。

ここで本実践に参加した2名の生徒についての社会科の学習に関する実態を簡単に記す。

生徒A（中2男子）

社会科の学習全般に対しては苦手意識があるものの、歴史分野に関しての興味関心は比較的高く、前向きに学習に取り組もうとする姿が見られる。しかし、病状との関係などによる欠席が多く、学習の定着があまりはかられておらず、体系的な理解というよりはスポット的な理解にとどまっている。

生徒B（中2女子）

地理的分野に比べると歴史的分野に対する苦手意識が非常に強く、興味関心は高くない。小学校から中学1年生までの学習内容に関しては、一つ一つの事象の知識はあるものの、知識と知識を関連づけて理解することや時系列に沿って流れとしては歴史を理解することは苦手としている。

以上2名の実態から、教室で行う普通の授業とは異なる学習状況や実物教材などを多く活用することを通して今までよりも歴史学習への興味関心を高めていきたい。

また、道具などの比較を通して、時代の移り変わりや物事の発展の様子などを理解することによって、1つ1つの出来事をバラバラなものとしてとらえるのではなく、歴史を1つのストーリーとして理解できるようにしていきたい。

本單元においては、江戸時代の身分制度や人々の暮らしを取り扱う。幕府がどれ程の力を有していて、どのように大名を統制していたかについては、教科書などの記述のみでは、何となく凄かったという程度の理解にとどまる恐れがある。そこで、歴博所蔵の江戸図屏風を用いて3代将軍の権威がどのように示されているのか細かな部分にまで着目したり、実際の屏風の大きさなどに着目したりすることで、将軍の偉大さをより実感することができるのではないかと考える。また、身分の違いについては、江戸橋広小路模型で再現されている様子から、農村の様子については四季農耕図屏風に記された様子を細かく読み取り、当時の農民の生活の様子をつかませることをねらいたい。

そこで、今回の活動では、屏風絵や模型の様子から江戸の町の様子や農村の様子を自ら読み取る活動を行うこととした。当時の町や村の様子が詳細に描かれている「江戸図屏風」や「四季農耕図屏風」、当時の江戸の町の様子がリアルに再現されている「江戸橋広小路模型」を細かな部分にまで着目して読み解く。これにより、当時の江戸の町にはどのような身分の人が暮らしていてどのような仕事に従事してい

たのかということや当時の百姓の暮らしから江戸時代の農業生産の向上についても読み取れるようにしたい。

3 指導計画（4時間扱い）

時数	日時	学習テーマ・学習内容	評価観点		
			知	思	主
1	7月8日（金） 1校時	[江戸幕府の成立と大名統制] ・年表や人物相関図から、徳川家康がどのように力を握り江戸幕府を開いたのかを読み取り、動画を用いて理解する。 ・大名の配置図や幕府の仕組図から、江戸幕府がどのように大名を統制し260年余り続く幕府の基礎を作ったのかを理解する。	○		
2	7月12日（火） 4校時	[江戸時代の身分制度] ・オンラインガイダンスを利用して、江戸時代の学習への興味や関心を高めて意欲的に学習に取り組む。 ・江戸図屏風に描かれている人物や建物の様子を読み取り将軍の地位の高さや江戸の町の様子を表現する。		○	○
3	7月14日（木） 2校時	[村に住む人々の暮らし] ・四季農耕図屏風から、当時の百姓の暮らしや農村の様子を読み取り表現する。 ・農具や牛馬の活用により農業生産が向上したことを理解する。	○	○	
4	7月15日（金） 1校時	[町に住む人々の暮らし] ・江戸橋広小路模型から、当時の町の建物や人々の様子を読み取り表現する。 ・町には様々な職業に従事する人々がいることや町人の生活の様子を理解する。	○	○	

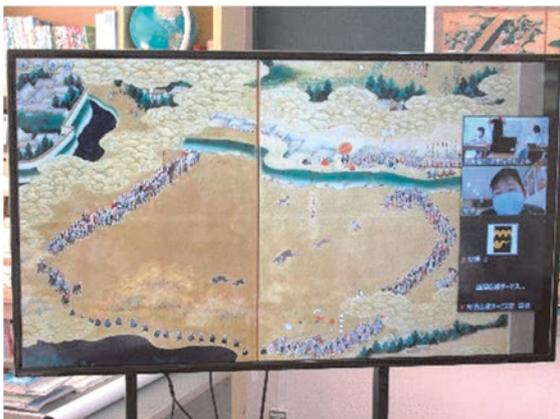
4 実践の概要

○1時間目

徳川家康による開幕と江戸時代が260年以上もの長きにわたり続くこととなった基礎である大名統制の仕方(大名の種類と大名配置の工夫)について教科書や資料集、NHK for Schoolの動画などを活用して学習した。A児、B児ともに徳川家康が関ヶ原の戦いで石田三成率いる西軍を破って江戸幕府を開いたことや将軍との関係の深さにより、親藩・譜代大名・外様大名と3種類に分類されたことなど、江戸幕府の基本的な仕組みについて理解することができた。

○2時間目

学校と歴博とを遠隔でつないでオンラインガイダンスを行った。まず、歴博の学校対応職員の方から、江戸図屏風というものが3代将軍家光をたたえるために約400年前に描かれたものであることや、新橋・京橋周辺の四季の様子を描いていることなどの説明があった。生徒たちにとっては、馴染みの薄い「屏風」について、そこに描かれた背景や描かれているものの様子などについて理解したことで、江戸時代への興味関心が高まり、その後の活動にスムーズに進むことができた。



次に実際に江戸図屏風を活用して屏風の見方を学習した。屏風が左右2枚で構成されていることや1つの折り目を扇と数えることなど、普段の授業の中では触れることのないような屏風についての細かな知識にふれることができたことで、屏風や江戸時代に対しての興味関心が高まり、その後の学習への意欲につながった。その後は、ワークシートに沿って、江戸城、日本橋、新橋・京橋周辺、洲度谷の4か所の様子の説明を聞いたのち、この中から自分が読み解きたい場所を2か所選んだ。当日は出席が2名であったが2名とも、新橋・京橋周辺と洲度谷を選んだ。選んだ場所について各自で、「②どんな人が何をしているか」「③人以外に何があるか」を屏風から読み取ってワークシートに記入していき、最後に「④不思議に思ったこと」も併せて記入した。資料を読み解くにあたって、1台のパソコンと歴博から事前に提供していただいた江戸図屏風の大幅コピーを使用した。大幅コピーで大枠をとらえ、印刷精度の関係で読み取りにくい部分に関しては、歴博のホームページの高精細画像を使って読み取りを行った。生徒たちは細かい部分にまで着目して読み取りを行うことができた。



その後、画面を共有して各自のワークシートに記入した内容を発表しあった。生徒Aは、動物がたくさん描かれていることに着目をし、生徒Bは、「家光が洲度谷を見ている」や「家光の隣に農民がいる」など、家光という存在を意識して読み取りを行うことができた。発表を通して疑問や不思議に思ったことについても共有し、歴博職員の方から解説をいただいた。授業を通してわかったことは、金の雲で場面を区切っていることなどの、屏風を描く際の決まりについてのものばかりではあったが、本時の目標である、「歴博のオンラインガイダンスを利用して、江戸時代の学習への興味関心を高めて意欲的に学習に取り組む。」という目標は達成することができた。さらに、江戸図屏風に描かれている人々の生活の様子はどのようになっているのかということや、江戸図屏風以外の屏風にはどのようなものやことが描かれているかなど、次時以降の学習への課題意識をもつことができた。最後に授業の振り返りを行った。普段の授業とは異なる状況の中での緊張している様子も見られたが、「普段の授業では聞けないような専門的な話を聞くことができ勉強になった。」や「歴史はあまり好きではなかったが、詳しい説明を聞きながら読み解きを行えたので、歴史に関して興味がわいてきた。」などの感想が挙がった。生徒たち自身、歴史学習に対する興味関心が高まり意欲的に取り組むことのできる有意義な活動であった。

○3 時間目

四季農耕図屏風から当時の農村の様子や農民の暮らしの様子を読み解く授業を行った。授業を進めるにあたって、歴博の第3展示室の四季農耕図屏風を授業者が事前に撮影した画像と歴博提供のワークシートを活用した。

最初に、「室町時代・安土桃山時代から江戸時代が変わって農業にはどのような変化や特徴が見られたか。」という問いを提示した。生徒たちは、今までの学習を振り返りつつ各自の予想を立て、「あまり変わらない。」「作物がたくさん取れるようになった。」「農具がよくなった。」「技術が向上した。」など様々な意見が上がった。その後、四季農耕図屏風の画像を印刷したものとワークシートを配付し、ワークシートに沿って屏風の読み解きを行って、冒頭の問いに対する検証を行った。前時に屏風の読み解きを行っていることから授業の流れを生徒たち自身が理解していたために、その後の展開をスムーズに進めることができた。まず、ワークシートに沿って、「田植えをする人」「田に水車で水を入れている人」「稲刈りをしている人」「蔵に米を運んでいる人」を屏風の中から探し出した。併せて、牛や馬がやっていることも屏風から読み取りワークシートに記入することとした。ここで、それぞれが書き出しまとめた内容の共有を行った。「変な機械で脱穀している。」や「牛や馬が人や荷物を運んでいる。」など、2人とも読み取った内容はほとんど同じであったが、共有できたことで自分が読み取った部分が基本的で大切な部分であることを再確認できたようであった。この活動を通して気づいたことを教科書や資料集を用いながら確認した。箕から唐箕への変化やこき箸から千歯こきへの変化のように農具が発達して生産効率が上がったこと、牛馬の利用が進んだこと、江戸幕府が新田開発を推し進めたことによる農地の拡大したことなどの状況を関連づけて、江戸時代の農業生産が大幅に向上したことを導き出すことができた。



○ 4 時間目

江戸橋広小路模型を用いて当時の町の様子と町人の暮らしを読み取る授業を行った。授業を進めるにあたって、歴博の第3展示室の江戸橋広小路模型を事前に撮影した画像と歴博公式YouTube「江戸橋広小路」、国立歴史民俗博物館編「わくわく探検れきはく日本の歴史3近世」を活用した。

まず始めに、江戸橋広小路模型の画像を印刷したものを配付し、その中で気になる人物や建物にチェックをつけ、服装や持ち物、周辺の様子などから、その人物がどのような人物であるかを予想し、自分がチェックをつけた人物や建物をお互いに共有した。生徒Aは、高い建物が少ない中で1つだけ飛び出てそびえ立っているという点に興味を示し、火の見櫓にチェックをつけ、町の全体を見回せる高さであるから逃げないように見張りをを行う場所であると予想した。生徒Bは、人物に注目し、同じ格好で複数人が大きな傘のようなものを持っている姿から、願人坊主を芸人ではないかと予想した。また、寿司売りに関しては、持っている寿司を配達品だと考え、宅配業者ではないかと予想した。これまでは、生徒A、生徒Bともに、教科書や資料集の資料を利用すると、解説に目がいてしまい、資料から思考したり読み取ったりすることが苦手であった。しかし、本時の授業では、模型の写真に解説を示さず提示したため、示された資料から限られた様々な情報を読み取り、それが何なのかを自分なりに考えて答えを導き出そうと前向きに取り組む姿勢が見られた。読み取りが終了したところで、江戸橋広小路の歴博公式YouTubeを視聴した。江戸橋広小路の場所、町の様子、人物について動画を停止して問いに答えながら進めていった。普段は授業中の発言が少ない生徒であるが、自分の答えを出したり、相手の答えを聞いたりしながら楽しそうに集中して取り組むことができた。生徒Aが挙げた「火の見櫓」の解説では、なぜ火の見櫓が必要なのかという点にまで思考を発展させ、町に木造の長屋が広がっていることを導きだし、ひとたび火事が起こると町が全滅する危険性が高いことなどに気づくことができた。生徒Bが挙げた「すし売り」の解説では、すしが庶民の手軽な食事になっていたことを理解することができた。

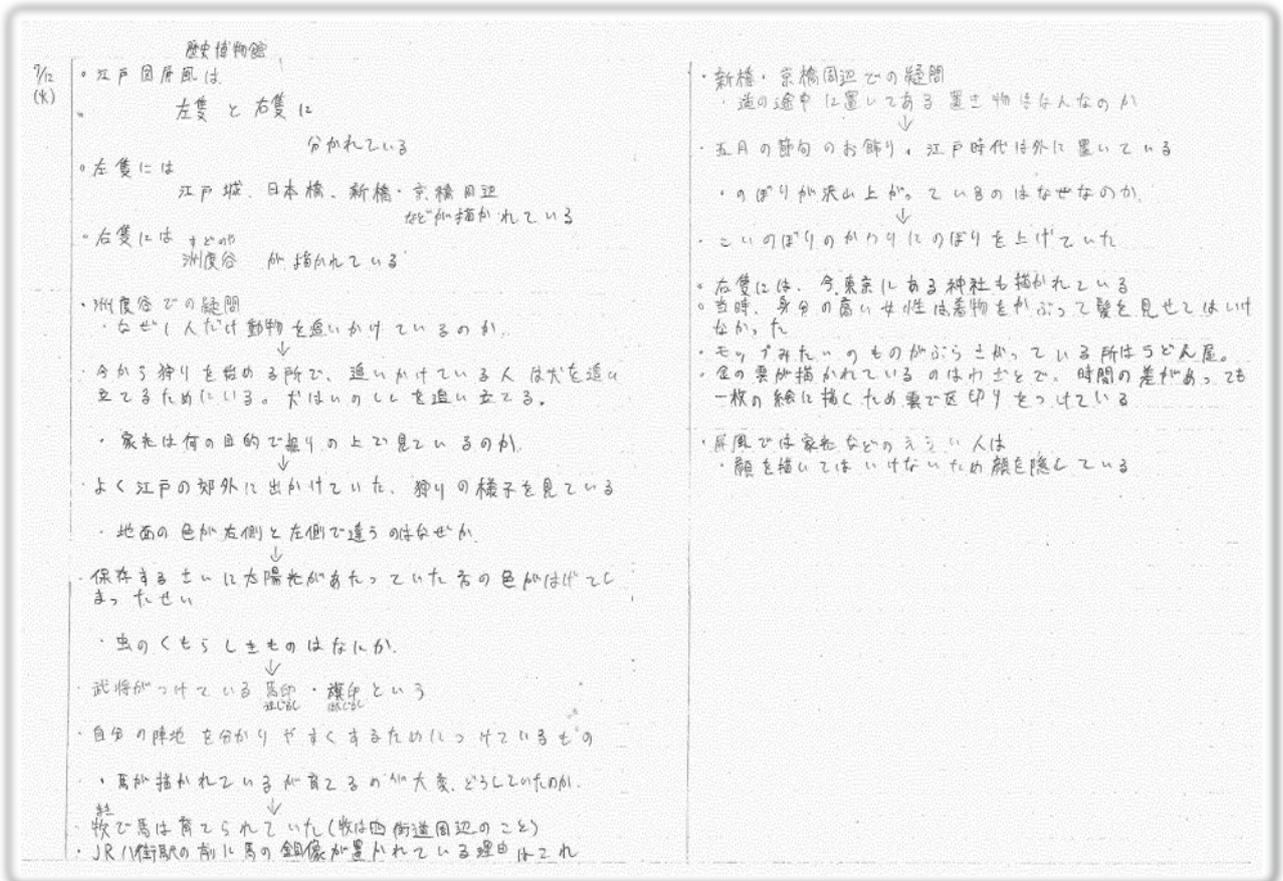


5 成果と課題

<成果>

今回は、非来館型ではあったが、オンラインガイドンス・展示・公式YouTubeの3つを活用して授業を行った。

オンラインガイドンスに関しては、歴博の学校対応職員の方からオンライン上で直接ご指導いただく機会が、生徒にとっては新鮮であり、大きな刺激になったと思われる。実際に、普段の予習や復習などを積極的に行う様子が見られなかった生徒Bが、学習内容を自主的にノートにまとめてきた。



このことは、生徒Bの関心意欲が向上したことを示しており、大きな成果であったと思われる。内容に関しても、生徒Aの感想にあったように、教科書にも掲載されている江戸図屏風について、その実物を所蔵している歴博の学校対応職員の方から詳細な内容についての説明が江戸時代についての理解につながり大きな成果があったと思われる。

展示に関しては、本来であれば来館して見学したいところではあるが感染状況により難しく、教科書や資料集などでは不足している情報を補うために事前に撮影した画像を活用することになったが非常に有意義であったように感じる。

歴博公式YouTubeに関しては、展示を撮影し解説を加えているため、来館できなくても、歴博の展示に触れることができることが非常に大きく効果的であった。動画の中で問いと解答が示されていること、BGMなどが一切入っておらず動画に集中できることなどの活用しやすい工夫が施されており、一時停止をして考える時間をとってから答え合わせをしたり、展示見学の代わりに流して見たり、活用の仕方は工夫次第で無限に広

がると感じた。より有意義な学習となるように、活用の仕方を実践を重ねて考えていきたいと感じた。

全体を通して博物館の活用が意欲の向上のみならず知識理解、思考判断にとって非常に有効であった。

< 課題 >

本校の場合、病弱児であるという特性上、コロナ禍において、校外に出て学習する機会が限られてしまい、来館型の学習を行うことが難しかった。また、病弱児の特性上、入院生活などの影響で、生活経験が少ない児童生徒が少なくないため、生活経験の不足を補えるような、体験型学習教材（VRを用いた江戸の町散策やAIを用いた江戸時代の町人にインタビューなど）があると歴史をより身近に感じ、益々の学習意欲の向上、歴史に対する興味関心の向上につながっていくのではないかと考える。

・ 参考文献

国立歴史民俗博物館編「わくわく！探検 れきはく日本の歴史3 近世 吉川弘文館 2017」